

【支部活動報告】

関東支部 行状記

関東支部 大久保雅弘

平成24年6月23日、梅雨の晴れ間をぬって関東支部年間行事を実施致しました。

当日は心配された台風4号も過ぎ去り、好天に恵まれた本年は旅行社企画のバス旅行「めろめろメロン食べ放題と水戸保和苑あじさい&潮来あやめの旅」常日頃の忙しさ?から心を癒すべく、花を愛でそして海鮮井で腹を愛でる県内各地を巡る旅に期待を膨らませての参加でした。

参加者は最年長82歳の倉持定雄氏を先頭に竹沢和夫(76歳)村上和夫(73歳)大久保清作(69歳)、尾上茂夫(68歳)、久家俊夫(68歳)、稲田稔(64歳)馬場泰則(72歳)大久保雅弘(72歳)の高齢者、総勢9名の参加となりました。

敢えて年齢を記しましたのは時の流れを感じて頂きたかったからです。

さて最初の訪問地水戸市内の保和苑では30数種類、約六千本のアジサイが咲き誇る苑内を散策し隣接する回転神社に参拝しま

した。

この神社には日本の歴史の先端を先駆けた「安政の大獄」から戊辰戦争に至るまでの幕末水戸藩殉死志士、832名と水戸のご老侯のお供の格さんが祀られています。世にはあまり知られておりませんので敢えてここから話は脱線します。

徳川幕府末の頃、外国船がしきりに我が国に來航して開国をせまり、尊王攘夷、討幕の嵐が京都を中心として国中に吹き始めました。

徳川幕府の御三家の一つであった水戸藩においては徳川宗家への忠誠を第一義とする“諸生派”と、尊王攘夷を大義とする“天狗党”の二派に分かれ抗争が起きました。

1860年、世にいう「安政の大獄」によって井伊大老による幕府の弾圧暴政は、その極に達し、これに憤慨した水戸烈士による「桜田門外の変」は尊王攘夷運動を大きく前進させました。

尊王攘夷を旗印とする「天狗党」はその後、各地からの賛同者3000と膨れ上がり京都を目指して各地で幕府軍と戦闘を交えながら進軍しますが遂に加賀藩に降伏し

名が捕らえられ³⁵³名が敦賀で斬首されました。この事変の極まりない終局は幕府滅亡へと拍車をかける結果となり、3年後の秋には徳川幕府十五代將軍の徳川慶喜は朝廷に大政を奉還、幕府300年の歴史が滅亡した糸口となりました。

茨城県人の性格を代表する「水戸っぽ」は①怒りっぽい、②理屈っぽい、③骨っぽいが水戸の「三っぽい」と言われますが茨城県全体ですと最後が“忘れっぽい”に変わる県民性です。

幕末の天狗党の動きにしても起つのは早かったが歴史の主導権は掴めなかった。気が短く直情径行の人物を輩出し上司に持つと部下は訳の判らない憤怒にビックリする。その仕事ぶりは荒っぽいが粘り強く一目置かない訳にはいかない。

結論は“いかっぺ”と早く間違ったら後で修正すっぺという口先と狡さ売りの関西ビジネスにとっては真に天敵のタイプ。

主な出身者としては江戸英雄、梶山静六、小林久三、倍賞美津子、深作欣二、間宮林蔵、横山大観、など。

さて、話をスイッチバックさせましょう。

水戸を離れて東に3里、波の華散る大洗にて新鮮10種海鮮丼でお腹を潤した後は収穫量日本一を誇るメロンの本場、サングリーン旭メロンの食べ放題、25分の時間制限とは言え持てあまし気味、更に南下して千葉県との県境、水郷潮来、古くから水運陸路の要所として栄え近世には奥州諸藩の物産を集めて江戸に向かう千石船がここで積み荷を積み替え行き交う大小の船で賑わった所“サッパ”と呼ばれる手漕ぎ船が日常的に使われ昭和35年発売の“嫁入り船”潮来の伊太郎”で一世を風靡、500余種、約一千万株の色とりどりのアヤメと菖蒲が咲き乱れるあやめ園を見学、嫁入り船の花嫁にアヤメも霞んでしまう美しさにつられ、しばし呆然。



以上



水郷潮来あやめ祭り

写真左から(敬称略)

- 大久保清作・馬場康則・稲田 稔
- 倉持定雄・久家俊夫・尾上茂男
- 村上和夫・大久保雅弘・竹澤和夫

あやめ祭り期間中には、東洋一の品種数を誇る園内で栽培された500品種花菖蒲が一斉に咲き乱れ、色とりどりの花をつけます。また、園内の水路をサッパ舟と呼ばれる小舟に乗って巡ることができます。水上からの花菖蒲もまた格別の美しさです。(水郷潮来観光協会)



【インターネット網】

が世界中に張り巡らされ、パソコン、スマートフォンなどが子供の身近になった。

こうした情報通信技術は(ＩＴＣ)は、遠く離れた人と瞬時に大量の情報をやり取りが出来、とても便利だ。だが対面せずに事実や意見を伝えられるコミュニケーション能力が必要になる。

「他の人と協力して生きてゆくためにＩＴＣを使いこなす能力は欠かせない。

子供がさまざまな人と意見を交換する機会を多く作り、文化や国が異なる人と意思疎通できる広い視野や深い理解力を養うべきだ」と信州大学の東原教授(教育工学)は語る。(N.P.記事より…編者)

